



第42号
豊丘村公民館
第五分館
編集 社会部
印刷 燦プランニング

堀越の今日
H. 14. 11. 1 現在
戸数 88戸
人口 375人

充実した掘越まつり

盛り上げてくれた子どもたち

第六回掘越まつりが11月2日3日の2日間行われました。3日の舞台発表には寒い日にも関わらず大勢の区民の皆さんが見に来てくれました。

盛大に行われた掘越まつりの特徴として、子供さん達の舞台発表が多かったことが上げられます。大人だけでなく、子供さん達がこのように大勢発表してくれると言うことは、この掘越の文化活動が活発であることの現れであると思えます。

今回も地元踊りのグループや民謡のグループなど沢山参加されて、見事な舞台発表を披露してくれました。また、特別に本館指導員の松尾さんによる豊丘村歌の楽しい指導や、林芳美さんによる綺麗な音色のオカリナ演奏と内容は盛り沢山あり



小学5年生による よさこいソーラン

り、二時間が短く感じられました。以前はプロの歌手や漫才などをお願いした時期もありましたが今回の掘越まつりを見てプロでなくても大変に盛り上がり立派な掘越まつりが行えて大変良かったのではないかと感じております。



林芳美さんによるオカリナ演奏

また、展示品は年々盛大になってきたように思われ、特に地域婦人会の展示品が沢山あって地域に密着した文化活動が現れており大変良いことと思えます。

お花のグループや個人の展示品も沢山展示されていて大変賑やかな文化祭ではなかったかと思えます。

隔年の文化祭ですが次回も大勢の方々が参加してく

練習してもっと上手に

四年 堀本光希

ほりこしの四年生と五年生と六年生の詩吟をなら

ほりこし祭に参加して

四年 松下真衣

私は、ほりこし祭で、詩吟とダンスの発表をしました。まず、プログラム三番目に詩吟を吟じました。大ぜいの人たちが見に来ていて、びっくりしたけれどもがんばって吟じました。少しあいだをあけてから

れますようよろしくお願ひ致します。

社会委員長 小椋 昇

五年生のいい思い出

五年 河野通祥

ぼくたち五年生は、ほりこし祭りですよさこいソーラ

ている人でほりこしまつりに詩吟の発表をしました。いちど大会で発表した詩吟をぎんじました。たくさん人が見に来ていたのできんちようして、さいしよは大きな声がだせなかつたけれどおわりのほうは声が出せました。

おわつたあと、先生やおかあさんたちから、上手にできたとほめてくれてうれしかった。これからも詩吟を続けてれんじゆうして、もつとじようずになるようがんばろうと思ひました。

今年の小学校の運動会におどった、ダンスをおどりました。文化祭前に一生懸命練習したので、まちがえずにおどることができました。みんなうれしかったと思ひます。

詩吟もダンスも、大ぜいの大人の人たちにお世話になって参加することができた。いい思い出になりました。

ンをおどりました。何日もみんなで練習をしました。

始めは、おどりを忘れてしまつて、思ひ出すまでに大変だつたけど最後には、皆そろそろようになりました。本番は、たくさんの人たちの前でおどつて、きんちようしたけど、はくしゅやお花をもらつて、とてもうれしかったです。

はじめは、はずかしかつたけど、上手にできて、五年生みんなのいい思い出になつて、とてもよかつたと思ひます。

自己最高スコアに満足

駒沢林 達也

分館のマレットゴルフ大会に参加させていただきました。私の家では、ヒョウウキンにも祖母と妻計三人出させていただきました。当日は、雨が心配される天気でしたが予定通り開催されました。水辺のマレット

トゴルフ場はプレーした方はご存知かと思いますが起伏にとんだコース設定で、良いスコアを出すには必ずそのコースの「打ち所」があるようです。

以前毎日のようにプレーされている方とコースを回

ったことがあったのですがその時に「第一打ここ、第二打はここ」と教えてもらった場所は何処だったかなあ？と思ひ出しながらの最初のラウンドでした。

一ラウンド回つてみて時間もあったので、もう一ラウンド回ることになりました。最初のラウンドで、なんとなく思ひ出していたので、自分でも「俺ってなかなかうまいんじゃないかな

！と錯覚してしまつたようなバーディー、パープレーも飛び出し自己最高スコアで回ることが出来ました。

他の出席者の皆さんも大体二ラウンド目の方が結果が良かったようプレーすればする程上手になるマレットゴルフの楽しさを味わせてくれた大会でした。

機会があればまたプレーしてみたいと思ひます。大変お世話になりました。



展示品の一部

まつたけ観光三十周年

堀越まつたけ観光が、事業発足以来三十周年を迎えました。当時としてはまだ村興し、地域興しなど聞かれない時代に、豊富に取れる松茸を生かし観光事業に取組み幾多の困難を乗り越え多くの功績を上げました。



昭和四十八年堀越松茸観光が先輩達の手で誕生して

本年度三十年目を迎えました。地域興し、村興しを三十年前に考え誕生させた先輩は立派の一言であったと思います。

本年の観光をみると茸の発生は、オープンより一週間位い順調に入荷があり豊作かと思つた所、急に少なくなり運営面で大変心配致しました。区内多くの出荷者の協力を得て少ない入荷量でありましたが、予約客を断ることなく営業できました。不作の昨年よりは多かつたですが今年の五、六分作で自然相手の茸ではしかならないこともあります。ただ三十周年事業の一環

本当の区民総参加を考えて

松茸観光も多くの方々の手を経て三十周年を迎えました事は大変な努力の賜と感心いたします。

その中で、毎年色々な声が聞こえてきますが本年も例外ではなかった。まず、従事者の部落割り当ては各部落苦勞をしたことと察します。従事者は主

催者側で集めて運営していくべき事ではないだろうか。今年のやり方で行くと来年は難しく感じられます。

区民総参加の大儀名分を表に出せばすべて良いわけではなく、方向づけにはある程度の理解を必要とされるだろう。景気低迷の中で、無理なく運営していける事

として区民招待が出来なかつたことは残念に思いました。当初部落単位か、隣組単位で招待しご賞味していただき、ご理解とご協力を戴くよう計画致しましたが茸が不作で中止をしなければなりませんでした。

来客者が土・日に集中したことや予約外者があり労働面で大変であつたこと、やはり不作のため売店で茸の小売が出来なくて残念であつたのが今年の特徴であつたかと感じております。

ゴミ缶撤去！不法投棄ゴミは何処へ

今年七月に、第五分館が堀越区内に設置してしました缶・ビン回収用のドラム缶が撤去されました。このドラム缶は結構重宝がられていたようで、時にはドラム缶から溢れんばかりにいつぱいになっていたのでを記憶しています。

私も御多分にもれず、利

を考えなくてはならない。

また、三十周年事業の報告も事後処理的となり、まづい点ではなかつたとおもわれます。ひとつの事業を行うにはそれなりの利益も必要である。しかし、利益に走りすぎると批判も多くなるであろう。三十周年を期に新たな方向づけを、選択していく事が急務となるのではないだろうか。

秋の食べ納めは、堀越の松茸だ秋の行楽の最後は堀越の松茸だと言つて毎年来て下さるお客さんがいて、

「今の姿で良いから大変ですが是非頑張つて続けてほしい」「堀越の松茸は最高である」と激励をして頂き力強く思う次第です。

時代の移り変わりは激しく、今までの三十年よりこれからの三十年は大変であると思ひます。特に松茸の発生がだんだんと少なくなつて現在松枯れの他、茸山

整備に力を入れていかなければならないと実感しています。

また、観光事業の労働面でも大きな課題であると思はれる区民総参加のもと英知をしぼり、お互いの理解と協力により永く続く様努力しなくてはならないと思ひます。

区民皆様のご協力に依りまして節目の年の観光事業が無事終わりました事に対して感謝申し上げます。観光委員長 小椋正敏

平成十四年十二月一日から、一般家庭でのゴミの焼却もできなくなりました。

考えたくはありませんが、ゴミの不法投棄はますます増えるものと想像できます。十二月八日(日)に区の扶役が行われ、黒谷線側溝の清掃に参加した時の事ですが、枯れ草の中や川のそこそこ、空き缶やゴミが捨てられていたのを発見。第五分館の恒例行事となつている、区内主要道路(黒谷線・広域農道・西部・胡桃沢)脇の清掃の時にはさぞかし多くのゴミが回収されるものと思ひます。

係の方による巡回も行なわれていますが、権限を伴つた人をもっと増やし、ゴミを持ち込ませない体制を確立して欲しいと思ひます。

今年も余す所、あとわずかととなり、秋の取り入れにお漬物の漬け込みにと、忙しい日が続きます。今年も様々な事が有りましたが、一番身近な所では、ゴミの分別方法が変わつた事ではないかとおもいます。各地区での説明会、毎月の村からのお知らせの中で分かりやすく説明されています。収集保管庫も設置されとてもよくなりました。

黒谷箋

今年も余す所、あとわずかととなり、秋の取り入れにお漬物の漬け込みにと、忙しい日が続きます。今年も様々な事が有りましたが、一番身近な所では、ゴミの分別方法が変わつた事ではないかとおもいます。各地区での説明会、毎月の村からのお知らせの中で分かりやすく説明されています。収集保管庫も設置されとてもよくなりました。

私自身まだまだ十分とは言えませんが、良い分別が出来よう努力したいと思ひます。また、収集に携わつておられる方々のご苦勞に、感謝いたします。私達一人一人が環境問題に関心をもち少しでもゴミを減らし煙を出さない様、気をつけたいものです。また、黒谷線を走つていて気がつく事ですが、時々ゴミの袋を見かけます。心ない人が捨てていくのでしょうか。そして、これをどなたかが片付けてくれているのだと思ひます。

今年一年、大きな事故も災害も無く天候にも恵まれて、二〇〇二年が終われることに感謝し、来年も良い年でありませう願う今日この頃です。

堀本一子